



# 並木中等進路だより

NO.3

JUNE3, 2014

前期生

茨城県立並木中等教育学校学習進路部

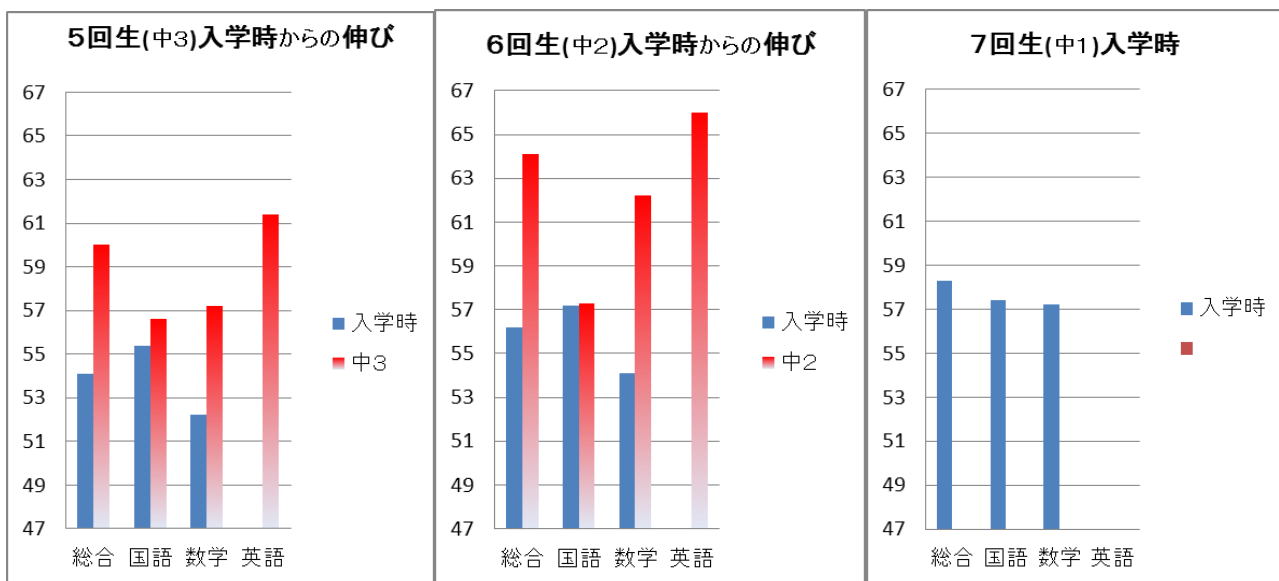
## 並木中等に入れば必ず伸びる：学力推移結果速報

中等前期課程の1・2・3年生は、4月28日に学力推移調査を実施し、その結果が過日各生徒に返却されました。下のグラフでは、入学時4月の学力推移調査平均偏差値の結果(左)と、今年4月の結果(右)をそれぞれの年次で比べています。例年言えることは次の2点です。

① 年を追うごとに入学生（4月時点での）成績がアップしている

② 並木中等では必ず入学時より生徒の成績がアップする

①に関しては、並木中等の受検生や保護者の皆様が、並木中等の教育活動にご理解をいただき、年々期待をしていただいている結果だと考えております。それに応えるべく、並木中等では、各授業内容のレベルアップと英語・数学を中心に補習の徹底を図り、その結果として、生徒全体の成績が入学時よりもはるかにアップしています。並木中等での授業をしっかりと聞いて勉強していけば必ず学力は伸びます。大切なのは、**当たり前**のことを**当たり前**にできるかどうか。それは、**能力や才能ではなく、努力とやる気**の問題であるということを生徒たち自身が示してくれています。ちなみに今春すばらしい大学合格実績を残してくれた1回生の入学当初(1年4月)の国数総合平均偏差値は**51.0**しかありませんでした。とはいえ、6年間という長いスパンにその努力を怠ってしまうと、他の人たちからかなりの遅れをとることになるのも事実です。今回の結果について詳しくは7月の保護者面談資料に掲載いたします。



	総合	国語	数学	英語
入学時	54.1	55.4	52.2	
中3	60.0	56.6	57.2	61.4

	総合	国語	数学	英語
入学時	56.2	57.2	54.1	
中2	64.1	57.3	62.2	66.0

	総合	国語	数学	英語
入学時	58.3	57.4	57.2	

## 無限の可能性を信じて



「課題が多すぎる」とたまに生徒たちから抗議を受けることがあります。もちろんそれは、「並木中等生ならこれくらいはできる」「これをやれば必ず伸びる」と生徒たちの能力と可能性を先生たちが信じているからです。だからこそ生徒のみんなも(たまに文句を言いながらも)、一生懸命課題に取り組み、成績を伸ばし続けてくれているのだと思います。ちょうど今、学校に教育実習生が来ていますが、先日彼らに話をする機会があり、そのとき紹介した話を載せておきます。ある先生との出会いで、男の子は将来の可能性を大きく広げることができました。

小学校で5年生の担任をしていた教師の話です。その先生は、小学校5年生の担任になった時、自分のクラスの中に一人、どうしても好きになれない少年がいました。服装が不潔でだらしく、好きになれなかったのです。先生は、中間記録に、少年の悪いところばかりを記入するようになっていました。ところが、ある時、少年の1年生からの記録が目にとまりました。1年生の時は、「朗らかで、友達が好きで、親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ」と記録されていました。「間違いだ。他の子の記録に違いない。」と、先生は思いました。2年生になると、「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する。」と記録されていました。3年生では、「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする。」 3年生後半の記録では、「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる。」 4年生になると、「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子どもに暴力をふるう。」先生の胸に激しい痛みが走りました。ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間だと感じられたのです。先生にとって、目を開かれた瞬間でした。放課後、先生は少年に声をかけました。「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？分からないところは教えてあげるから。」少年は初めて笑顔を見せました。クリスマスの午後、少年が小さな包みを、先生の胸に押しつけてきました。あとで開けてみると、香水の瓶でした。亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。先生はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねました。一人で本を読んでいた少年は、先生に気がつくまで飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫びました。「ああ、お母さんの匂い！きょうは素敵なクリスマスだ！」 6年生の時、先生は少年の担任ではなくなりました。卒業の時に、少年から一枚のカードが届きました。「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で、一番すばらしい先生でした。」それから6年が経ち、またカードが届きました。「明日は高校の卒業式です。僕は5年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学することができます。」さらに10年が経ち、またカードが届きました。そこには、先生と出会えたことへの感謝と、父に叩かれた体験があるから患者の痛みがわかる医者になれると記され、こう締めくくられていました。「僕はよく5年生の時の先生を思い出します。あのままダメになってしまう僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、5年生の時に担任してくださった先生です。」そして1年後、届いたカードは結婚式の招待状でした。「母の席に座ってください」と一行、書き添えられていました。

(「致知」2005年12月号 致知出版社より)